

あすなろ

編集：〒064-8506

札幌市中央区南4条西10丁目

北海道難病センター内 あすなろ会

定価100円

◆◆◆ 個人参加難病患者の会 ◆◆◆

会報140号



8月6日全道集会終了後大通ビアガーデンにて

〈 目 次 〉

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 私から皆さんへひとこと . . . 1 | 6. 難病連ニュース . . . 16 |
| 2. 医療講演に参加して . . . 2 | 7. 総会出欠葉書書き込みより . . . 18 |
| 3. 第38回難病患者・障害者と
家族の全道集会 | 8. 会費納入の書き込みより . . . 20 |
| ◇総括レポート . . . 4 | 8. お礼・お願い・お知らせ . . . 21 |
| ◇難波吉雄先生の記念講演 . . . 5 | 9. お料理レシピ . . . 22 |
| ◇参加者から寄せられた感想 . . . 10 | 10. 新聞切り抜き等 . . . 23 |
| 4. 会報編集グループより . . . 14 | |
| 5. 医療講演会のお知らせ . . . 15 | |

— おさらいノート『貴方の力を貸してください』 —

貴方だけが難病に罹ったわけではありません。また他の人だけが難病に罹るのでもありません。表現がまずいかも知れませんが、難病に罹るというリスクは私たち全員に“機会均等”に訪れるリスクなのです。そういう意味で“難病は決して人ごとではない”のです。

難病患者はしばしば生命（いのち）の尊厳を脅かされます。そして人間としての尊厳を脅かされてしまいます。それだけに患者同志で励まし合うこと助け合うことが何よりも貴重なのです。

貴方は医療費が高くなって困ってはいませんか？
福祉制度の空洞化で生活を脅かされている方がお近くにいませんか？
難病患者はともすれば弱者です。弱い立場であるだけに皆さんで連帯し合いましょ。病名は違っても“難病患者同志は仲間”なのですから。

闘病中の皆さん。病状が軽くて済んでいる方も重い方も、心のどこかに隙間を作って、仲間を思いやる余地を持ち合いたいですね。

多くの難病患者のために“ほーん”の少し貴方の気持ちをください、
“ほーん”の少し貴方の時間をください。できたら“ほーんの少し”、
貴方の力を貸してください。

難病連と「あすなろ会」は“ほーんの少し”貴方の力添えを待っています。

努力不足のせいもあって少しずつで残念なのですが、「あすなる会」に入会を申し込まれる方が続いています。そうしたなかでここ1年の間に、会長である私に『改めて心しなければならぬ』と思わせる方に入会いただきました。

道東のOさんは31歳の若いお母さんです。今年8月に満2歳になられた可愛いお嬢さんをお持ちです。

生後2カ月経ってお嬢さんにカフェオレ斑が出てしまいました。カフェオレ斑は神経線維腫症Ⅰ型/別名レックリングハウゼン病という、厄介な神経難病に特有の症状です。

昨年2月にご当地の病院で診断を受けて病名が分かりました。

昨年10月に「あすなる会」に入会されたOさんからいただいた入会申込書に次のような書き込みがありました。

『周囲に病気を理解してくれる人がおりません。娘の将来が心配です。可能ならばこの病気の会員様にお会いして、病気のことをいろいろ伺いたいです』。若いOさんの娘を思う親心は察するのにあまりあります。

Oさんには同病の会員を2人だけご紹介することができましたが、どれだけ力になってあげられたか、自責の念が頭から離れません。

同じく道東のIさんは32歳の女性です。HTLV-1関連脊髄症（通称HAM）の患者さんで、今年の5月に入会されました。

HTLV-1は古くから人類と共存しているごく普通のウイルスです。ヒトの白血球（リンパ球）に感染して、①リンパ球の一種（T細胞）が腫瘍化する成人T細胞白血病・リンパ腫（通称ATL）と、②歩行障害・排尿排便障害を引き起こす脊髄疾患（通称HAM）などにつながります。

Iさんからいただいた入会申込書に次のような書き込みがありました。

『どうしても前向きになれず孤独になりがちなので、一緒に病気を乗り越える仲間が欲しい』。

また、いただいたお便りには、『4歳の息子とたくさん遊べず、悔しくて悲しくて、それに家事をまともにできない自分の状態が悔しくて、毎日泣いてばかりでした』など、苛立ち・悲しみ・孤独感にさいなまれる難病患者の心境を面々と綴っておられました。

白血病を併発する恐れと対峙し、HAMの治療を続けているIさんに、どれだけ力添えができるか不安ばかりが先にたちます。

去年から今年にかけて12名の新入会員を迎えることができました。

その反面、入会数と同じくらいの会員が退会してしまいました。

病気が治ったとか寛解状態が続いているとかなら一安心できます。退会の理由がよく分からないのですが、もしも「あすなる会」の会員であることに限界を感じた結果の退会だったらと思うと胸がつぶれてしまいそうです。

たくさんの稀少難病の患者さんが、広い道内に散在しているはずですが。

「あすなる会」はそうした患者さんご家族のたった100名しか会員になっていただいております。「誠実」だけでは課題は解決できないことは明白です。前を向いて愚直に歩んでいくしかないと思うこの頃です。

医療講演会に参加して

札幌市 渡辺 貢一

7月18日（祝日）の午後、北大病院リハビリテーション科の松尾雄一郎先生をお招きして、『神経疾患から学んだりハビリテーションとは？』という演題で、医療講演をしていただきました。

リハビリテーションと聞くと、単純に整形外科を連想してしまうリハビリ音痴の私でしたが、おぼろげな知識を整理するまたとない機会をいただくことができました。

以下、先生のご講演を聞いての私の感想を綴ります。

松尾先生のプロフィール…

*松尾先生は滋賀県大津市のお生まれで、奈良県立医大を卒業の後、京都府立医大の神経内科に入局。その後は京都府綾部市の市立病院勤務を経て北大病院リハビリテーション科に着任され現在にいたっております。

リハビリテーションとは…

*リハビリテーションという言葉は「再び適した状態になること」「本来あるべき状態への回復」などを意味します。さらに専門的には、「心身に障害を残した患者が心理社会的に再適応されること」だそうです。

こう聞くと皆さんも少しは頭の中が整理されると思いますけど……。

リハビリテーション科とは…

*疾病や外傷の結果生じた心身の症状を治療する専門集団です。疾病は病因を治療し外傷は構造と生理機能を修復することが医学的本質です。

近年診療科は臓器別再編を進めていますが、リハビリテーション科は心身の症状を全体的に見据える科として、他の臓器別の全診療科と対局にあります。

*リハビリ科の医師は看護師や専門のセラピスト（PT・OT・STなど）、ソーシャルワーカーと協力し合い、医学的根拠に基づいて、何をどこまで・どのように・いつまでに良くするのか、計画し治療します。

*リハビリ科は【日本専門医制評価認定機構】が定める18の基本診療科の一つです。

リハビリテーション医療の背景…

*リハビリ医療はリハビリ科の専門医を中心にして、看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に、ソーシャルワーカー・義肢装具士などが取り巻くチームで進められます。ここで、理学療法士（PT）とは脚・腰の専門療法士、作業療法士（OT）とは手・腕の専門療法士・言語聴覚士（ST）とは話すこと（発声）と聴くこと（聴覚）の専門療法士なのだそうです。

専門医や療法士は足りている？…

*リハビリ科の専門医が不足しています。

専門医は全国で1800名弱しか育っていないのです（平成23年6月のデータ）。都道府県別の専門医数では北海道は第8位の57名ですが、人口10万人当たりで見ると順位は第34位に下がって1,029人しかおりません（平成22年度のデータ）。

57名の専門医が広い北海道のなかで札幌市にだけ集中しているのも問題です。

*療法士も不足しています。

理学療法士を例にとりますと、936床ある北大病院にも僅か12名しかおりません。人数が少ないうえ治療が1単位20分（ということは患者1人1回の治療に20分しか時間をかけられない）、1日の上限が24単位、1週の上限が108単位までと制限されているのです。

専門医の立場からパートナーになる療法士の人数と単位の不足は喫緊の課題なのです。

リハビリテーションする部位と疾病は？…

- *運動器リハビリテーション…変形性関節症・関節リウマチ・骨折など、
- *脳血管リハビリテーション…神経筋疾患・脳血管障害・外傷性神経損傷など、
- *呼吸器リハビリテーション…慢性閉塞性肺疾患・肺炎・手術後など、
- *心臓リハビリテーション…心筋梗塞・心不全など、
- *がんリハビリテーション…脳腫瘍・頭頸部癌・肺癌・乳癌など、

リハビリを必要とする神経筋疾患患者の数…

- *脳血管障害（脳卒中など）…約137万人、
 - *アルツハイマー型認知症…約17万6千人、
 - *パーキンソン病…約14万5千人、
 - *多発性硬化症…約1万2千人、
 - *多発筋炎・皮膚筋炎…約6千2千人、
 - *脊髄小脳変性症…5～6千人、
 - *重症筋無力症…5～6千人、
 - *多系統萎縮症…2～3千人、
 - *ギランバレー症候群…2～2千5百人、
 - *筋萎縮性側索硬化症…1～1千5百人、
- （以上、難病医療センター・厚生労働省のデータより推計）

ジストニアのリハビリ…

- *ジストニアは神経が働らき過ぎて起る病気で、不随意運動とも表現されます。
- *持続的な筋緊張により、しばしば捻転性または反復性の運動や異常な姿勢をきたす病態。
- *常同性・動作特異性・感覚トリック・オーバーフロー現象・フリップフロップ現象・共収縮・陰性ジストニアなどがリハビリの対象になります。

ギラン・バレー症候群のリハビリ…

- *急性期…廃用症候群の予防（主に関節可動域訓練が中心）、呼吸理学療法（呼吸筋麻痺を伴う場合）、
- *回復期…筋力強化訓練（筋力に応じた強度で行なう。筋電図バイオフィードバックを用いた低周波電気刺激も行なう。一方過用に注意。目安として自覚的疲労感や筋肉痛、時に血清CK値）。

神経疾患のリハビリテーション…

- *これまで神経疾患のリハビリテーションは、受け身・守りの姿勢で自然な流れに従うことが多かった。
 - これからの神経疾患のリハビリテーションは、積極的・攻めの姿勢に変化しつつある。
- 神経ブロック・神経の可塑性。

スライドとパワーポイントを使ってわかりやすい講演をいただきました。お約束いただいていた時間を30分もオーバーして、個別相談にも親切に対応していただきました。松尾先生にはあらたて心から感謝申し上げます。

第38回 『難病患者・障害者と家族の全道集会』

総括レポート

森 浩幸

8月6日に行われた全道集会の基調報告の中で高田秦一代表理事は、2009年度に当会の柳弘子さんが患者家族の訴えで紹介したユキさんの話になり、ユキさんは、念願のお薬が地元で入手出来る様になりましたと報告されました。患者数の圧倒的に少ない稀少難病では、改善効果のあるお薬の入手さえも命がけで闘わなくてはならなかった、ユキさんは個人参加部会「あすなる会」の仲間や難病連と、共に闘って実現にこぎつけた。まさに患者会の一寸先に光がありは命に繋がった話されたのです。



高田秦一代表理事

「患者会は光」という意味で、もう一つ大きなニュースはB型肝炎訴訟で2006年に責任を認めた国が、6月28日にようやく集団訴訟患者との間で和解協議に合意したこと、そして今原告の少なからぬ人たちが経済的な苦しさや差別偏見に苦しんでいること、問題の深刻さは訴訟が終わったからといって解消したわけではないことですが、ひとつの光明と言えましようと言われました。

そして難病患者に対しては、私たちの期待の膨らむ中央の障害者制度の改革に向けた議論は、障害者施策の門戸を拓げ、難病や慢性疾患を持つ人にも社会的支援が受けられるようにという方向に進んでいます。去る6月25日に衆議院を通過した「障害者基本法の改正法案」では障害者の定義に「身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む)その他の心身の機能の障害があるものであって、障害および社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活の相当な制限を受ける状態あるもの」と規定されました。6月15日の衆議院内閣委員会での審議では「その他の心身の機能の障害」という中に「難病も含む」こと、「継続的に」という中には「周期的、あるいは継続的な状態も含めて広くとらえる」ことが、政府答弁で明確にされました。今後、総合福祉法(仮称)の制定や、その他の法制度や施策の改善においても、この新しい定義に基づいて実質的な施策の門戸が開かれるように願うものです。

先人から引継いだ財団法人北海道難病連の活動の伝統と運動を継続と承継で発展させ、やがて私たちは新たな組織に生まれ変わろうとしています。リニューアルし新たな仕組みで公益を目指す財団法人北海道難病連となりましょう。と高田代表理事は話され拍手喝采で基調報告が終了しました。

(以上基調報告より抜粋)

記念講演 「難病と研究等について」

8月6日(土) 厚生労働省健康局疾病対策課長の難波吉雄講師を迎え特別講演をしていただきました。実は数日前に、部署が替わり横断幕の役職名に、"前"と張り紙されていたのに参加された皆さんは気づかれたと思います。



難波吉雄講師

難波講師の特別講演では、1901年における100年後の予測のお話が始まり、この中で医術の進歩と言う項目では、薬剤を飲むことはなくなり、電気針で痛みなしに患部に薬液を注射できる。顕微鏡とX線が発達することで病原の摘出治療が自由になる。内科手術はほとんど外科になり、将来は肺結核でさえ肺を摘出して防腐のうえ殺菌できる。もちろん切開は電気により全く痛みがない。100年前の予想に近い進歩が実現して今日の治療技術があります。

1900年(明治33)と2010年(平成22)の総人口では約3倍に増え、平均寿命では男性は42.8才→79.59才、女性は44.3才→86.44才と倍に伸びています。次に死因については1900年(明治33年)では、1位は肺炎及び気管支炎、2位は全結核で合わせて約20%であり、平成20年では、1位が悪性新生物、2位が心疾患で合わせて約44%という結果になっています。次に、難治性疾患克服研究事業についてのお話でした。

息抜きに難波氏の経歴などの話があり、その後、研究事例として認知症の例を挙げ症状や画像の例が映し出され、家族が認知症に気づく変化として、

1. 同じ事を何度も言ったり聞いたりする。
2. 物の名前が出てこなくなる。
3. 置き忘れやしまい忘れが目立った、などの例を挙げられました。

健忘が疑われる会話として

夫：「あれ取ってくれ」

妻：「新聞ですか、目の前にありますよ」

夫：「違うよ、あれだよほら、その上にある」

妻：「あれだのそれだのじゃ、分からないですよ」

夫：「あれがないとこれが読めないんだよ」

妻：「ああ、メガネですか、それならテレビの上のメガネと言って下さいよ」

夫：「そう、テレビの上のメガネだよ」
などの例が説明されその後難病関係のお話に移り、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。
去年は、来賓の挨拶の時間が長くなったため、講演の時間が押せ々になって講演の時間が削られてしまいました。今年度は予定通り講演が行われました。
来年も、今年度の様な進行が出来れば良いと思います。

参考資料(講演時プロジェクターで投影された内容です)

難病対策に関する課題①

◇医療費助成(特定疾患治療研究事業)における問題

①対象疾患(医療費助成の「谷間」)

難治性疾患

難治性疾患であって、特定疾患であって、特定疾患治療研究事業の対策疾患(56疾患)とならないものは、高額医療費制度以外の医療費軽減の仕組みがない。一方で、難治性疾患の要件を満たしていない疾患の取扱いについても検討が必要。

小児慢性特定疾患(キャリアオーバー問題)

小児慢性特定疾患治療研究事業の対象疾患(例 胆道閉鎖症など)であって特定疾患治療研究事業の対象とならないものについては、20才以降、医療費助成をうける事が出来ない。

②安定的な財源の確保

受給者増・医療費増が見込まれる中で本事業について十分な予算を確保出来ない状態が続いており、安定的な財源を確保出来る制度の構築が課題になる

③医療費助成事業の性格

希少疾患の症例確保を効率的に行うという研究事業でありながら、公費で医療費助成を行うという福祉的側面を有する本事業の在り方について検討が必要。この際、保険制度等との関連も検討することが必要となる

難病対策に関する課題②

◇福祉施策に関わる問題(福祉施策の「谷間」)

難病患者であっても、障害者自立支援法の対象とならない人(「障害者」の定義に該当しない人)、介護保険法の対象や難病患者等
居宅生活支援事業の対象(臨床調査分野の130疾患の対象者)とならない人は、ホームヘルプ等の福祉サービスが使えない
現在、難病患者等も含め、「障害者の範囲」をどう考えるかについて、「障害者総合福祉法」に関する論点の一つとして内閣府障害者制度改革推進本部において検討がなされており、難病対策としての福祉施策と障害者施策の関係を整理する必要

難病対策に関する課題③

◇難治性疾患に関する研究に関する課題

①対策疾患

- ・難治性疾患克服研究事業の研究対象は、臨床調査研究分野の130疾患及び研究奨励分野の177疾患
- ・希少性の疾患は5000から7000もあると言われており、研究対象の追加要望も絶えないことから、現在研究対象となっていない疾患も含めてどのように研究していくかが課題
- ・難治性疾患の要件を満たしていない疾患の取扱についても検討が必要である

②その他

- ・稀少疾患の医薬品開発研究との連携が必要となる

難治性疾患克服研究事業

80億円

臨床調査研究分野

- ・希少性(患者数5万人未満)
 - ・原因不明
 - ・治療方法未確立
 - ・生活面への長期の支援
- の4要素を満たす疾患から選定し原因究明などを行う。対象疾患は130疾患

研究奨励分野

4要素を満たす疾患のうち臨床調査研究分野に含まれないものであって、これまで研究が行われていない疾患について、実態把握や診断基準の作成、疾患概念の確立等を目指す
(平成21年度創設)
対象疾患 平成21年度177疾患
平成22年度214疾患

難病に関する研究の概要

平成23年度予算 100億円

難治性疾患克服研究研究班に登録されている患者の臨床データベースを利用し、拠点施設と連携した研究を推進

重点研究分野

革新的診断・治療法を開発

横断的基盤研究分野

疾患横断的に原因・病態解明

指定研究

難病対策に関する行政的課題に関する研究

元気な日本復活特別枠
20億円

健康長寿社会実現の為にライフサイエンス・プロジェクト(難病、がん、肝炎等の疾患の克服(うち難病関連分野))

難治性疾患患者遺伝子解析経費【一般公募型】

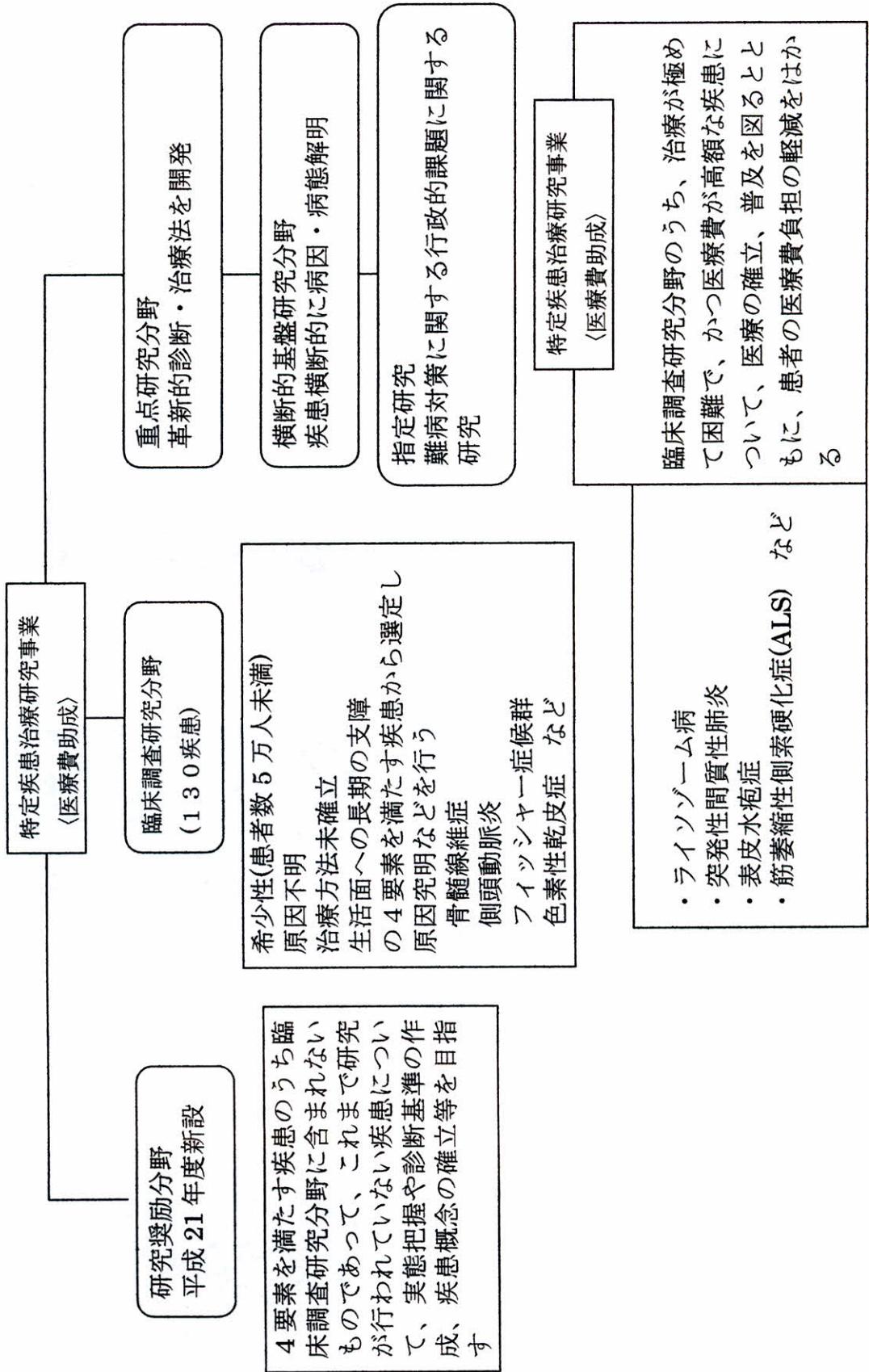
既存の遺伝子解析装置を所有する研究者又は共同利用可能な研究者により解析を推進する

次世代遺伝子解析装置導入経費【拠点公募型】

難病の解析を総合的に進めるため5疾患群を5拠点施設に分けて解析を推進する

※外国人研究者の招へいや外国への日本人派遣により、海外との研究協力及び連携を推進する

難治性疾患克服研究事業



参加された皆さんよりの感想

有意義な二日間でした

白井 基子

8月6・7日札幌市かでの2・7で開催されました全道集会に参加しました。札幌の猛暑の中体力に不安が有りましたが、会場内は心地よい温度調整がなされていましたので、屋外の蒸し暑さをよそに快適に無事二日間を終える事が出来ました。

「あすなろ会」の会員でお久しぶりの方、一年振りの方、いつもの方々と会話も弾み嬉しい楽しい時間を過ごしました。皆さんお疲れ様でした。

1日目のオープニング・アトラクションのアリランコンサート湯浅聖子さんの美しいすてきな歌声に魅了させられての熱唱に拍手喝采でした。

次の患者・家族の訴えは毎年強い感銘を受けます。一人目…「僕は自由に生きたいんです」と題して、日本筋ジストロフィー協会北海道支部の佐藤太一さんの心情です。自身筋ジストロフィー患者さん23歳。19歳の弟さんも同じ病気です。息子さんに替わってお父様による発表でした。近くに呼吸器専門病院があつて、専門の診療を受けられたなら、体調悪化・緊急時に車に布団を敷いて道南の八雲の病院に不安な気持ちで走らなくてすむ…野球を観たり、コンサートに行ったりという事を「自分で決めて自由に生きたい」と若者らしい当然の思いだと心を打たれました。

二人目…「今あらためて医療・福祉制度の大切さを訴える」、北海道腎臓病患者連絡協議会の福原真理子様です。透析を始めて37年8ヶ月を過ごしての制度の大切さについてのお話でした。同病者の中で一番困っているのは医療で透析を受けながら一生懸命働いて所得税を納め、必ず払う



受付の白井さん



佐藤太一さんのお父さん



福原真理子さん

透析治療費、合併症治療費の負担も多くと訴えられていました。心身ともにご苦労な事とお察しします。どんな人も、どんな時も、どこに住んでいてもより良い医療を受けられる制度の大切さを今後も訴え続けていきたいとの発表に強い決意を感じました。

<基調報告>は難病連の代表理事の高田秦一様です。難病患者・障害者の皆様にと「今日の参加に向けて、日頃の療養に頑張っておいて体調を整えておいでの方も多いでしょう～」のご挨拶に高田代表の思いやり・心配り・優しさを感じて"ウルウル"しちゃいました。そして、難病連の活動内容の説明があり、新しい仕組みで公益をめざす北海道難病連になる様に患者会運動を継続・発展させなければとの思いを話されていて、いつもご苦労様と頭が下がりました。<集会アピール>の朗読は理事の下田拓也様です。東日本大震災と津波、そして放射能の不安と苦しみと経済不況の中の難病・障害者に激励と支援と救済の為に全力を捧げなければとアピールされ、命の尊厳を守るために団結を!と呼びかけられました。

二日目の「あすなろ会」部会分科会は交流会を行いました。一般の方の参加もありました。ご自分のご家族の病気、仲間の病気を話したり、いろいろな意見交換ができて、身の引き締まる思いと親しめた交流会を最後に全体集会は終了しました。有意義な二日間有り難う御座いました。皆様に感謝で～す! 来年の大会は苫小牧開催です。多くの会員の方々にお会い出来る事を楽しみにしております。



分科会の様子

20年ぶりのビアガーデン

猿田 優子

今回初めて参加させて頂きましたが、貴重なお話を聞かせて頂き本当に有り難う御座いました。ご不自由な身体でも頑張ってお参加されていた数多くの方々を拝見して私もたくさんのエネルギーを頂きました。また、会の後大通公園のビール園に誘って頂き始めてお会いした方々とも打ち解けてお話出来、楽しく過ごせました。

実は私、何と20年ぶりの大通りビアガーデンでした。メニューが多いのにはビックリしました。ごちそうさまでした。これからも宜しくお願いします。

ワイワイと楽しいひと時でした

河原 貴子

8月6日・7日今年は、連日お天気に恵まれ(6日は一時雨が降りましたが(^_^;))暑い2日間となりました。「あすなる会」は、12名の参加！ 函館・厚岸・名寄と遠方からもご参加頂き本当に有り難う御座いました。

湯浅聖子さんのアリランコンサートで始まり、黙祷の後高田代表理事の基調報告では、



アリランコンサートの湯浅聖子さん

あすなる会のユキさんが地元で薬の入手が可能になり、『一寸先の光』に繋がったと報告されました。難波氏の記念講演「難病と研究について」では、認知症の薬や症状を例えに、医療費の研究費は100億円予算が組まれているとの事、心強い！反面名前も聞いたことのない病気が全部研究されるのにかかる金額ってどんな…？

集会後予定されていた食事は残念ながら中止となりましたが、夕立のあがった涼しいビアガーデンで8人の参加での交流会となりました。座り方を考えず奥から順に座ってたら、結果！渡辺会長が注文係になってしまいました。おかげ様で私たちはおしゃべりに花を咲かせワイワイと楽しいひと時を過ごすことが出来ました。有り難う御座いました。本当にお疲れ様でした。次回は、全員参加の交流会が実現出来ると良いですね～。

2日目は、昨日参加出来なかった4人の方も出席され、新しく入会された方の紹介、病気の説明を聞かせて頂き、聞いたことのない難しい病名で同じ病名の方を見つけるのも困難と思われまます。どんな思いで「あすなる会」に入会して頂いたのかな？私に出来る事、役に立つことは見つけられるのかな？皆さんで出来る事からいつ歩つつ前進して行きましょう！。終了後30代・40代・50代・60代？の4人組は、地下のイタリアンレストランでのランチタイムとおしゃべりを十分楽しみ、それぞれの家路についたのでした。

今年は、柳さんが体調不良の為出席できなかった事が残念でした。次回は是非回復されて、柳節をご披露して下さいます様にお願ひ致します。

楽しかった二日間

丸山 靖子

今年は札幌での全道集会。昨年、旭川で何人かの「あすなろ会」の方とお話ができとても有意義な時間だったので、今年も迷わず参加させてもらいました。名寄から朝一番の特急に乗ってワクワクしながら札幌に向かいました。実は、次男がこの春から札幌の大学に通っているのです、どんなことになっているのやら・・・こちらの様子も気になっていました。

受付で優しい笑顔の白井さんといつもメールで元気をいただいている河原さんお忙しい中お手紙やお電話をくださる渡辺さんの笑顔を見てホットしました。

全体集会でたくさんの方のお話を聞いてうなづくことばかりで、一人一人の力は小さいけれど、こうして同じ思いの皆さんの力がまとまって、難病患者・障害者の方の生活が今より改善され生活しやすい世の中になって欲しいと強く思いました。私もできることから何かをしなければならぬという思いになりました。

1日目終了後「あすなろ会」の皆さんと、大通りのビアガーデンに行きました。田舎者の私はたくさんの人とあまりのビアガーデンの広さに驚いてばかりでした(笑)。連日の暑さでグッタリでしたが、心地よい風と皆さんのおしゃべりでとっても爽やかな気持ちになりました。

2日目の分科会は交流会でしたが、私自身まだまだ勉強不足で少しでも皆さんの病気を知ることから始めなくては・・・と言う思いになりました。渡辺会長さんが「あすなろ会」は、違う病気の方が集まっていて、皆さんそれぞれに抱えているものが違うけど、その人に寄り添っていくことがとても大切だとお話され、とても温かい気持ちになりました。

今回は2日間出席出来たので、あすなろ会の方々とゆっくりお話することができたのが何より楽しい時間でした。新しい出会いもあり、とっても嬉しかったです。

私は現在普通に生活ができていますが、これからのことを考えると不安になることがあります。でも今回の全道集会に参加して、さらに「あすなろ会」の方々とお話できて、皆さんそれぞれ精一杯がんばっていて、辛い時には相談する場所がある・・・ということがわかりました。今、あすなろ会は私にとってお守りのような心強い存在です。

(余談ですが・・・息子の家に入ったとたん疲れがどっと。台所も洗面所も風呂場も・・・ひどい。ひどすぎる。翌日、会員の方に息子のことを聞かれ話したら、「元気に生きて良かったね」言われました。そうだったんだ、息子が汚い部屋の中でもご飯を作って食べて、ちゃんと元気でいてくれたことに感謝しなくちゃいけなかったんだ。息子を怒鳴った私を反省しました。)

「会報に名前は入れないで」と言われました(^_^;)

会報編集グループ

8月に開かれた全道集会の2日目、「あすなる会」の分科会は交流会の形で開かれました。前半の約1時間は渡辺会長から会を運営していく難しさと、会の在り方の再認識などについて話されました。それに続いて意見交換に移りましたが、ある会員さんから「会報に会費を納めた人の名前が入るようになりましたが、私の名前は伏せてほしい」というご希望（ご意見）が出されました。

平成22年度発行の会報から編集方針が少し変わりました。そのひとつは会報に会員のお名前をできるだけ載せようということでした。新しい編集方針に沿って22年度発行の第1号（通算No.135号）から、【お礼・お願い・お知らせ】のページに会費を納入していただいた会員のお名前を入れるようになりました。

「自分が難病患者であることをできるだけ伏せたままでいたい」。こんな多くの会員の“胸の内”を知っているだけに、会報に会員のお名前を載せることは大きな決断でした。でも、この壁を破って一歩だけ前に向かって進んでみたいと考えた末の決断でした。

難病患者は孤立しがちです。長い間、偏見という差別にも苦勞しながら耐えてきました。

「あすなる会」の100人ほどの会員は全道に散在しています。人口がいちばん大きな札幌市在住の会員でも50人弱にすぎず、会員の半数以上は広い道内に散在しているのが現状です。

また、100人あまりの会員の病名が何と35もあるのです。1疾病1会員で同病仲間がいないという“文字どおりの孤立会員”が25人もいます。同病仲間が10人に満たない“孤立しているといってもいい”疾病が8つもあります。会員24人のサルコイドーシスと会員18人の橋本病だけが“仲間に恵まれている？”疾病なのです。

「あすなる会」入会申込書をめくってみると、「同じ病気の方と会ってみたい」「同病の闘病経験者にいろいろ聞いてみたい」という切実な願いを胸に秘めて入会してくる会員が多いことに気づきます。

「あすなる会」はこうした会員のために、何とかして仲介役を果たしたいと思うのです。

そして到達したのは、同病ではないけれども同じ難病の仲間として、病名を離れて“癒し癒される”仲間として、連帯し合う「あすなる会」でありたいとの願いです。

そのために会報に血を通わせたいと考えました。会報に名前を出すことで少しずつ血が通い始めるのではないかと思います。ささやかな願いかも知れませんがそう思いました。

同病ではないけれど「〇〇市の〇〇さんはこんなことを綴っていた」「〇〇町の〇〇さんは胸の内にこんな思いを秘めて闘病している」。こういう思いの通い合いが匿名であるよりは暖かみのある情報交換につながるのではないかと考えました。

また、毎年のように運営委員は会の収入支出の計画を作るのに苦勞しています。収入はなかなか増えませんから“手弁当精神”で協力し工夫しあって運営しています。

それだけに、「郵便払込票で〇〇さんから会費が納入された」「〇〇さんが難病センターに来てくれて会費を払ってくれた」ということを知るたびに、嬉しさが爆発する(?)のです。

その嬉しさを何とかして〇〇さんにお伝えしたい。「あすなる会」として感謝の気持ちをどのようにして〇〇さんにお伝えしようか。いつも思いは空回りを続けてきました。

そしていろいろ考えたすえ、会報に載せることで会員が全員で〇〇さんに「ありがとう」と感謝の意を表わすことにしようということにしたのです。

一方、「私は〇〇という難病の患者です」と胸を張っていえる時代がそこまできている。胸を張っていわなければならない時代がそこまできているとの思いもあります。これは空想に近い理想なのかも知れませんが、私たち難病患者はそんな時代にさしかかっていると思うのです。

しかし、現実には甘くはありません。難病患者の心境はもっともっと複雑です。

さて、そろそろ結論を急ぎましょう。「あすなる会」は会員一人ひとりの思いを大切にします。

会報にお名前を載せるのは「差し障りがあります」という方は、その旨を郵便局の【払込取扱票】のどこかに明記するか、ハガキなどでお知らせいただくかしてください。仮名を記入していただいてそれを載せるのもひとつの方法です（こうした主旨のことは会報137号の21頁に掲載しております）。

実名を載せることで血の通った会報にという思いを大切にじつづ、皆さんそれぞれのお考えを大切にしながら、少しでも皆さんに喜んでいただける会報作りの努力を重ねていきたいと思っています。

網島 優先生をお迎えして開く【医療講演会】のご案内

「あすなる会」は下記要項で、今年度第2回【医療講演会】を開催します。

- ◇演 題 『肺にはいろいろな病気がおこります』
～呼吸器系の難治性疾患について～
- ◇講 師 網島 優 先生 国立病院機構 北海道医療センター
呼吸器内科医長
- ◇内 容 全身の臓器の中でも特に肺には多種多様な病気が起こり、そのほとんどが
治療が難しいものです。
特定疾患に指定されているものやそれ以外の難治性疾患のいくつかを選んで、
スライドとレジュメを使って説明していただきます、
- ◇開催日時 2011（平23）年11月6日（日曜日）
午後1時00分／開場（受付開始）
午後1時30分／講演開始
午後2時30分／講演会終了
- ◇会 場 北海道難病センター（札幌市中央区南4条西10丁目）
3階大会議室
- ◇主 催 個人参加難病患者の会「あすなる会」
- ◇定 員 先着（参加予約）50名様
- ◇参加料 会員非会員を問わず無料です

*お問い合わせ・参加申し込みは電話かFAXで北海道難病連相談室まで……
（複数参加を希望される場合は全員のお名前をお知らせください）

あて先 〒064-8506 札幌市中央区南4条西10丁目
北海道難病連センター内「あすなる会」
電話番号…… 011-512-3233
FAX番号… 011-512-4807

難病連 ニ ュ ー ス

「なんれん大震災募金」にご協力をお願いします。

北海道難病連が加盟しているJPA（日本難病・疾病団体協議会）に、北海道・東北ブロックという組織があります。その仲間で私たちと活動をともにしている東北3県（岩手県・宮城県・福島県）の難病連は、大震災発生後9カ月が経過するなか震災被災地で難病患者と障害者のために地道な救援活動を続けております。ご存じのとおり北海道難病連は東北3県の難病連を支援する募金運動を行っております。

*募金の第1回集計は10月13日に行い、同15日に開催される【JPA北海道・東北ブロック交流会】で3県の難病連に、《JPA東北北海道交流会》の場でお渡しいたします。

*募金の方法は郵便振替で…口座番号02790-9-108714
口座名 北海道難病連大震災募金 宛て
(払込手数料は各自ご負担ください)

*払込票の通信欄に「激励メッセージ」を書き込んでください。募金にメッセージを添えて渡すことで、私たちの気持ちがより強く相手に伝わると思います。

「あすなる会」と19支部の関係を再構築しましょう。

難病連は〈財団法人〉から新しい法人〈公益財団法人〉へ再出発しようとしています。その経過で31患者会と道内19支部との関係も新しい時代を迎えようとしています。

*「あすなる会」の会員は「あすなる会」に入会を申し込み、年会費を払うことで会員になります。

一方で、「あすなる会」は難病連の理事会によって【部会（患者会）】に組み込まれ、加盟団体の一つとして難病連参加の団体になります。

こうして「あすなる会」の会員は北海道難病連の会員にもなるのです。

*また、道内の19支部は難病連の理事会の議決によって設置され、地域に住む難病連の【部会（患者会）】の会員が、地域のために集まって組織を作り地域で活動する場です。

*ここで下記のような問題がありました。

1、【部会】（「あすなる会」のような患者会）は会員の個別情報を保護するために、会員名簿を公開してきませんでした。その結果……

- ①、支部には地方に在住する【部会】の会員の存在が伝わらない、
- ②、地域に在住する【部会】の会員も地域活動や地域情報に触れる機会がない、
- ③、これでは支部による地域活動も広がりやを欠くし、地域在住の会員も情報や活動の両面で孤立を余儀なくされ、双方ともに不自由をきわめている、

*こうした現状を打開するために、【部会】が持っている会員情報を積極的に19支部に伝え、情報を受け取る難病患者であり地域で活動する難病患者であるという位置付けをはっきりさせて、今後の難病連の活動に方向性を加えようということになりました。

*「あすなる会」も今秋を目処に19支部に地域在住の会員情報を伝えることにします。もちろん、皆さんの個人情報を守るためのガートを固めて、皆さんに迷惑がかからないよう万全の対応を約束いたします。

*【部会】と【支部】は車の両輪といわれてきました。その両輪がシャフトでしっかりと連結されることになるのです。これを機会に皆さんが、地域支部の難病仲間の一員になって、活動し情報の受け手になることを願っています。

2011年度「あすなろ会」定期総会の出欠はがきで寄せられたメッセージを紹介します

* 以下は出席のご返事をいただいた皆さんからのメッセージです *

- | | |
|-----------------------|---|
| 穴田 節子さん
(北見市・本人会員) | ご案内いただきありがとうございます。楽しみにしております。
—当日は何故か出席いただけませんでした— |
| 小野 穂瑞さん
(札幌市・本人会員) | 今回の災害で、今までの当たり前だったことを、見つめなおすきっかけになりました。今、元気でいられることに感謝しています。 |
| 河原 貴子さん
(小樽市・家族会員) | 「あすなろ会」の総会に初めて出席して早3度目の春になりました。
新しい出会いに恵まれたたくさんの方と知り合う事ができ、難病の多いさと大変さに改めて学んでいる今日この頃です。
今年も楽しんで参加できる幸せを感じながら過ごしたいと思います。 |
| 佐古 則子さん
(札幌市・本人会員) | もう年度変わりの総会の時期ですね。一年が早く、私はバタバタと走り回っていた様に思う一年でした。 —お父さまの介護のため欠席でした— |
| 白井 基子さん
(室蘭市・本人会員) | いつも御苦労様です。穏やかなお天気に恵まれます事を祈っています。
そして身体をいたわりながら、多くの会員さんにお会いできる事を楽しみにしています。 |
| 菅原 幸子さん
(千歳市・本人会員) | 運営委員の皆様、大変ご苦労さまです。
私は不眠等、体調と相談しながらの毎日です。 |
| 多田 励子さん
(札幌市・本人会員) | 昨年11月の末に京極より札幌に越して来ましたので、始めて総会に出席させていただきます。役員の方々、本当に御苦労様です。運営委員の方見つかりましたでしょうか？ いなければ主人がお手伝いしてもいいと申しております。—ご主人さまと電話でお話した結果、サポート・スタッフとしてお手伝いいただくことになりました— |
| 西飯 輝子さん
(札幌市・本人会員) | 病名は側頭動脈炎ですが、同じ病気の方はおりませんか？
もしおりましたらお話をうかがいたと思います。
…当日は体調をこわされたせいか出席いただけませんでした— |
| 松井 幸子さん
(札幌市・本人会員) | 「あすなろ会」の役員の皆様にはいつもお世話になってばかりで申し訳ありません。昨年暮れ位より体調もすくなく、新年を迎えて2月に病院の帰りに気をつけていたのですが、転倒してしまいました。幸い骨折はしていませんでしたが、やっと少し痛みもなくなってきました。
総会で皆様にお会い出来るのを楽しみにしています。 |
| 三村 優子さん
(札幌市・本人会員) | こんにちは。今年はお正月ごろからの短期集中の大雪と寒さがすごかったですね。それに、東日本大震災で、札幌も揺れた為、めまいと頭痛がひどいです。『とりあえず出席』にしておきます。今年もよろしくお願ひ致します。どうしても体調不良の場合は事前にセンターにTELします。 |
| 村井 シツさん
(札幌市・本人会員) | 体調や病院などのやりくりでぎりぎりまでお返事出せなくてごめんなさい。出席させていただきます。 |
| 八木 芳乃さん
(札幌市・本人会員) | 四月でもハダ寒い日が続いていると思います。
そんな中、集ってくださる皆様ありがとうございます。 |
| 柳 弘子さん
(札幌市・本人会員) | 『久しぶりにお会い出来るのが楽しみです。大震災は当該地域だけでなく皆の問題ですね。復興までの長い期間をどうやって支援できるか、患者として、人間として、考えなければならぬ。…また、偉そうなこと言っちゃったけど、年に免じて許してね』 |
| 渡辺 貢一さん
(札幌市・本人会員) | 前回よりたくさんの方の会員さんが集って、稔りのある楽しい総会になったら嬉しいです。期待をこめて待っています。 |
| 渡辺セツ子さん
(札幌市・本人会員) | あすなろ会報に掲載されている渡辺会長さんのお話に安堵を感じております。次に柳 弘子さんのお話にも、知らなかったことをいろいろと知ることが多くて、参考になっております。これからもいろいろと教えて下さい。クリスマスパーティーでいただいた石鹸うれしかったです。 |
| 渡辺 義弘さん
(千歳市・本人会員) | 日々忙しい追われていますが、総会には出席できる様にします。
調子をくずさないよう気をつけます。 |

* 以下は欠席のご返事をいただいた皆さんからのメッセージです

- | | |
|------------------------|---|
| 桶田 謙一さん
(札幌市・家族会員) | 会報を読んで様々な病気の人が「まけないように」がんばっている様子がよくわかります。ありがとうございます。 |
| 垣内 敦子さん
(小樽市・本人会員) | サルコイドーシスと判明してから13年になりますが、最近1~2年は病状(眼)もよく、もしがしたら治癒したのではと思っております。それにしても難病のなんと多いことでしょう。一進一退で日々苦しんでおられる人達の病状が、少しでも快方へ向うよう願ってやみません。「あすなろ会」の運営に携っているみなさんもうとうぞおからだを大切に。 |
| 嘉指 毅さん
(札幌市・家族会員) | 娘もなんとか元気で過しております。皆様も季節変動が厳しい折、ご自愛ください。ご健勝をご祈念申し上げます。 |
| 小林 直美さん
(札幌市・本人会員) | 総会は欠席は欠席させていただきます。 |
| 佐々木あゆみさん
(札幌市・本人会員) | 「あすなろ」会報をいつも送って下さりありがとうございます。具合が良くないので総会は欠席させていただきます。追伸 谷口さんの生活保護が決定し、薬代の公費負担も認められる方向との事、本当に良かったですね。 |
| 成田 愛子さん
(帯広市・本人会員) | いつもお世話になっております。4月23日の定期総会は残念ながら差し支えがあって出席できません。出席の皆様によろしくお伝え下さい。陰ながら当日のご盛會を祈っております。 |
| 長谷川充子さん
(北見市・本人会員) | 柳さんのご投稿にホッと心が和んでいます。このような過ごし方にとっても励まされています。こころの有り様でこころ豊かになるものですね。私も病とのつき合い上手・生き上手になりたいと思います。谷口幸子さん。一日も早く厚労省が認可することを願ってますし応援しています。 |
| 早川 君子さん
(厚岸町・本人会員) | 今年は雪が多くて(道東は少ないです)、皆さん大変な思いをした事と思います。役員の皆様、いつも御苦勞様です。会報はいつも楽しみに読んでいます。今回は体調が悪いので総会は欠席します。よろしく願い致します。 |
| 古川 俊彦さん
(釧路市・本人会員) | 札幌の会社を辞めて釧路にきています。なかなか都合が合わず「あすなろ会」の定期総会に出席することが出来ません。「あすなろ会」の皆さんが元気であります様祈っています。 |
| 邊見 達夫さん
(帯広市・本人会員) | 残念です。頂度旅行中に当たります。次回24年度に体調が戻れば、是非出席できるようハピリに励みます。 |
| 丸山 靖子さん
(名寄市・本人会員) | 会報を毎回とても楽しみにしています。教えていただくことがたくさんあります。そして会員のみなさんの一生懸命頑張っている姿に、力をいただいています。役員のみなさんいつもありがとうございます。名寄もようやくあたたかい風が吹くようになりました。これからもみなさんが希望を持って、笑顔で暮らせるようお祈りしています。 |
| 三浦 健一さん
(函館市・家族会員) | 「あすなろ会」会報を読ませていただきました。下垂体をテーマにした内容でしたので、興味深く読ませていただきました。ありがとうございます。この度の総会も出むく事無理のようなので、心苦しく思っております。本人が一人では行かれないですし、母親の私もこの所体調がすぐれないので、同行するのも不安が残るので申しわけありません。追伸 今回3月13日の医療相談会も、都合がつかないので何う事が出来ません。残念です。 |
| 森山 恵美さん
(札幌市・本人会員) | お世話になるばかりで恐縮しています。不安定な目の具合に合わせながら過しています。 |
| 山田貴美子さん
(函館市・本人会員) | いつも色々とお患者様の御報告を読ませていただいております。とても心強く励みになります。又、今回は「あすなろ会」総会出欠のはがきを印刷して下さり、少しでも事務費を浮かそうとなさっている努力に感謝いたします。まだ寒さが続きます。お体に御留意下さい。 |

会費の【払込取扱票】通信欄の書き込みから

事務局

「あすなろ会」の会費はゆうちょ銀行の【払込取扱票】で納入していただいております。皆さんが会費を納入してくださると、数日後に貯金事務センターから【払込取扱票】のコピーが郵送されてきます。その通信欄に私たち事務局宛の、いろいろな書き込みをいただくのですが、会員の皆さんのせつかくの生のお便りですから、私たちだけが読むだけでは“もったいない”ので、会報に載せることにしました。

- *北見市の佐藤様、 申し訳け有りません。22年春から入院しておりました。冬近くなって退院しましたが、病院通いで忙しい生活でした。〈会費2カ年分を払い込みしてくださいました〉
- *帯広市の邊見様、 早速のお計らいありがとうございます。非常に参考になりました。〈ご提案に促されて会報139号に病名別・在住市町村別の会員数一覧を掲載したことへの返信をいただけて恐縮しております〉
- *釧路市の伊藤様、 いろんな活動をしていただき、ありがとうございます。そしてお疲れ様です。会報を楽しみに読ませていただいています。お身体にお気をつけてお過ごしください。
- *札幌市の佐藤様、 いつもありがとうございます。
- *札幌市の佐々木様、 天候不順で体調をくずして、今年も全道集会に出られそうもありません。遅くなりましたが会費を振り込みます。
- *名寄市の丸山様、 暑い中、「医療講演会」や「全道集会」の準備にご苦労さまです。全道集会でみなさんにお会いできるのを楽しみにしております。
- *弟子屈町の井関様、 平成23年度の会費を納めます。遅くなってすみません。今年の全道集会は都合で参加できません。よろしく願いいたします。
- *札幌市の浜田様、 役員の皆様、いつもありがとうございます。特に会報の作成は大変だろうと推察いたします。一つ残念なのは文字が薄かったり、小さかったりで読みにくい部分があること。ちょっともうひと工夫をお願いしますね。

以上取扱日順に掲載しました。この次も【書き込み】お待ちしております。

お礼・お願い・お知らせ

☆お礼

◇次の方々からご寄付をいただきました。

千歳市の渡辺義弘様、札幌市南区 匿名 様、

◇8月31日現在で次の皆さんから2011年度の会費を納入いただきました。

ありがとうございました。（5月末までに納入済みの方々のお名前は前号に掲載済みです）

穴田 節子様、池田 博 様、井関 枝美様、伊藤 隆子様、伊藤 昌子様、板垣 憲一様、
浦山 登雄様、大床 幹敏様、大山 美奈様、岡内ミサ子様、桶田 謙一様、小原多美子様、
垣内 敦子様、加藤幾久子様、河合 信子様、川口 恵子様、小林 直美様、後藤 尚子様、
斉藤千鶴子様、斉藤 安正様、佐々木あゆみ様、佐藤カヨ子様、佐藤美弥子様、猿田 優子様、
高嶋みゆき様、飛沢 正子様、中村ひろめ様、永末 秀子様、成田 愛子様、西山 秀子様、
橋本 愛子様、長谷川充子様、蜂谷 勝壽様、浜田まり子様、廣瀬 晴朗様、藤田安恵子様、
古川 俊彦様、邊見 達夫様、掘下まゆみ様、前田のぶえ様、松田由美子様、丸山 靖子様、
三浦 健一様、水谷 明子様、美野ひろみ様、宮内 浩子様、三宅 千春様、森山 恵美様、
八木 芳乃様、山崎 三男様、山田貴美子様、渡辺セツ子様、

以上、一般会員52名様、50音順、

今 千草様、廣瀬 直子様、村島 義男様、

以上、賛助会員 3名様、50音順、

☆お願ひ

◇会費納入がまだの方には、会報に会費の【払込取扱票】を挟み込みました。

どうぞ早めの納入をお願いいたします。

☆お知らせ

◇引き続き投稿を募集しています（テーマは自由です）。

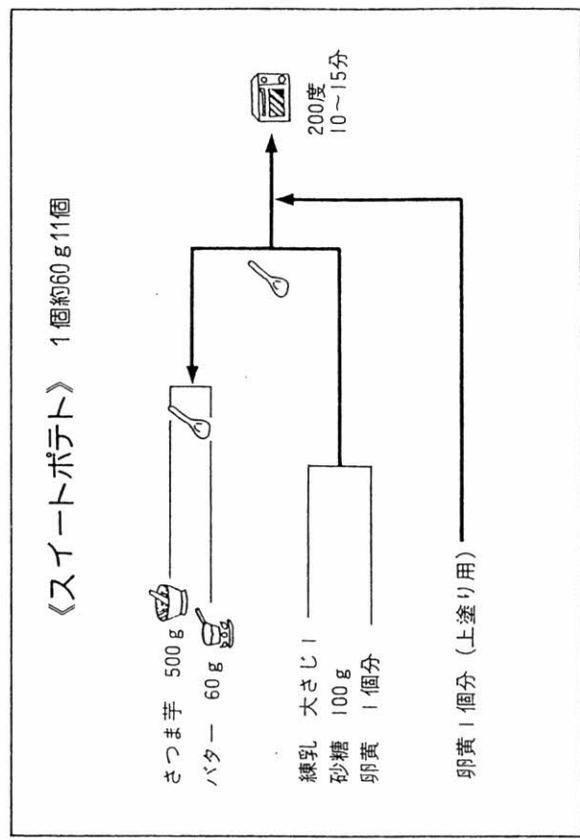
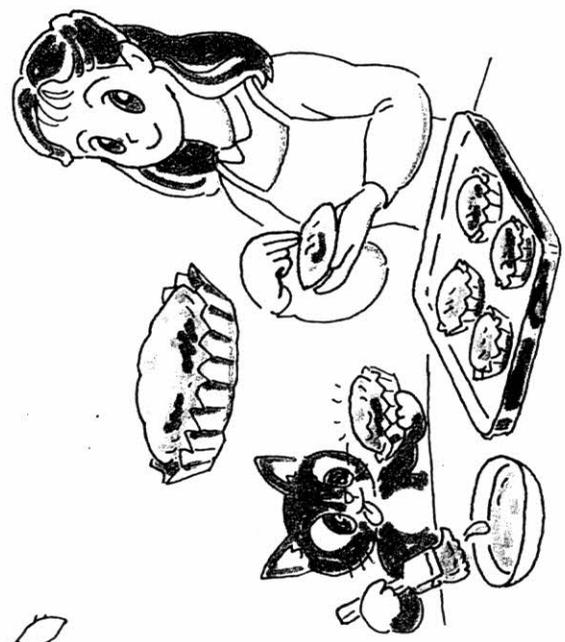
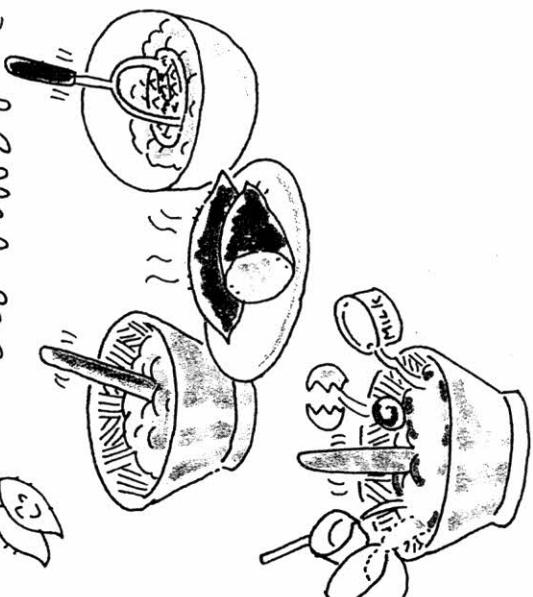
字数は100字でも200字でも自由です。参考までに400～450字なら半頁に
900～1000字なら1頁になります。

皆さんの生の声が文字になって写真やイラストなどが適度ないろどりになって、会報
のあちらこちらに収まってくれたら、さぞ楽しい会報になるのではと思っているの
ですが……

◇会報141号は11月発行の予定です。投稿の締切りは10月10日までです。

お待ちしてまあ——す。待ちくたびれそうで——す。

スイーツポテト



小林カツ代 楽々ケーキづくりより フルーツ味たっぷりのケーキ

♥二がポイント

さつまいもは熱いうちにすりつぶすこと、とろりとするまで、材料をよく混ぜること。
なお、スイートパンプキンも、作り方はスイートポテトとまったく同じです。

♥作り方

- *オーブンを熱する。
- *さつまいもは皮ごとふかして、熱いうちにすりこぎでつぶす。あればポテトマッシャーでつぶすと早い。
- *とろ火にかけて溶かしたバターを加え、さつまいもとよく混ぜる。
- *練乳、砂糖、卵黄を次々と加えていき、なめらかになるまで混ぜる。柔らかすぎてまとめにくければ、いったん火にかけて練るとよい。
- *たねを細長くまとめ、ケースに入れて卵黄をはけで塗り、オーブンへ。二〇〇度で、焦げ目がつくまで十〜十五分焼く。焦げ目が出なかつたら上段でつける。

私のスイーツポテトは、めんどろな裏ごしなんかはいたしません。手間をかけておいしくなるなら、何でもしますけど、味はむしろ裏ごしなんかしないほうがおいしいし(もちろん隠し味がちゃんとあるんですが)、それに、いま話題のダイエタリーファイバーだって全部残るんですから。裏ごしなんかして捨ててしまったのでは、惜しいですよ。

作り方は簡単至極。ゆでたさつまいもをつぶして材料をじゃかじゃか練り混ぜ、アルミ箔のケースで焼けば、ハイでき上がり。さつまいもをかぼちゃにかえて作っても、とってもおいしいですよ。

病気のこと、くすりのこと じっくり調べてみませんか？

病気のことを知りたい方に

なるほど病気ガイド

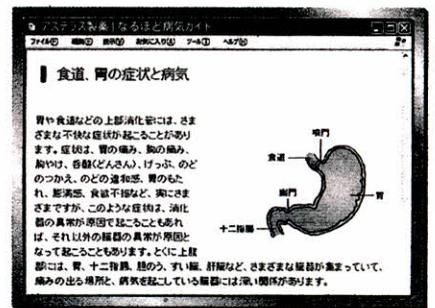
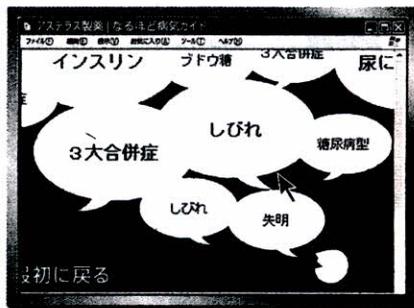
検索

<http://www.astellas.com/jp/health/healthcare/>

アステラス製薬の「なるほど病気ガイド」には、
さまざまな病気に関する情報が掲載されています。
病気のメカニズム、日常での注意点、治療、
よくあるQ&Aなどがわかりやすく紹介されています。
病気について気になること、
人にはちょっと聞きにくいこと……。
ぜひ「なるほど病気ガイド」でお気軽にお調べください。



幅広い情報！ **気になる病気の領域をクリック** → 簡単！ **気になるキーワードをクリック** → わかりやすい！ **わかりやすい解説が表示されます**



生活習慣病
脂質異常症、糖尿病、高血圧

消化器の病気
胃潰瘍・十二指腸潰瘍、逆流性食道炎

骨・関節の病気
関節リウマチ、変形性関節症

中枢神経の病気
不眠症、うつ病

感染症
副鼻腔炎、中耳炎

皮膚の病気
アトピー性皮膚炎、とびひ

泌尿器の病気
前立腺肥大症、過活動膀胱

移植
臓器移植

アステラスのくすりのことを知りたい方に

アステラスくすりガイド

アステラス製薬の医療用医薬品の情報を、
50音順の製品名検索で簡単に調べることができます。

アステラスくすりガイド

検索

<http://www.astellas.com/jp/health/product/>

あすなろ会の皆さん、次号で又お会いしましょう！

お身体を大事に



ようやく涼しくなって来ましたね。

夏の暑さでみなさん体調を崩してはいませんか？

これから色々と美味しい物が出て来ますね。

あまりのおいしさに食べ過ぎに注意して下さいね(*^_^*)

それと、急に寒くなって来ますので風邪にも注意して下さいね。

では、次号で

(^^)/

◎ 会費納入のお願い ◎

平成23年度「あすなろ会」会費をまだ振り込まれていない方がおりましたら、早めに振り込んで下さいますようお願い致します。

会費 2,400円 賛助会員 2,000円(会員は必要ありません)

合わせて北海道難病連「運営協力会」にご加入下さるようお願い致します。



編集後記

夕の会仲向と 午前は会議と宛先整理、午後は会報発行準備
ファイクイメサカヤ、パノモをメレス、1日2日、 渡辺

秋晴れの気持ち良い日に皆が集り久々に元気な顔に会え楽しかったです♡ 河原

車窓から、スッパリと秋晴れの空を眺めながら、心地良く出席できました。鼻
及し、ふりに運営委員の皆さんの顔がなつかしかったよ。色んな話しがたか

柳さんとても美味しいコーヒーをありがとうございました。
皆さん(今日は8人参加)で頂きました。Cの「ヤキ」

今日参加した皆さんのお話を聞くことが、ありがとうございます。西飯
できるときにやれる事をやれる様うにしてください。渡辺(義)
いつもの仲向と楽しい時間を過ごしました。天候にも恵まれて(^.^) 森

編集人 個人参加難病患者の会「あすなろ会」

〒064-8506 札幌市中央区南4条西10丁目難病センター内
電話 011-(512)-3233

本会報の購読に関するお問い合わせは「あすなろ会」までご連絡お願い致します。